



小牧営業所 運輸 班長 **熊谷 健**

南星キャリアックス株式会社の小牧営業所で運輸部門の班長を務める熊谷健さんは、1993年（平成5年）に中途社員で入社して以来、ドライバーとして働いてきました。一方で、メンバーの出発呼や管理など、中間管理職としての業務も担当しています。そんな熊谷さんに、印象に残っている出来事や失敗体験、今後の目標などを聞きました。

——入社してから現在までの中で、印象に残っている出来事を教えてください。

もう15年位前の話です。滋賀県の近江八幡市まで配送に通っていた時期があります。今でこそ雪のシーズンでも高速道路が通行止めになることは少なくなりましたが、一昔前は、多重事故が起るとすぐに通行止めになっていました。

ある雪の日も、案の定、高速道路は通行止め。その日は一般道路も車が立ち往生する状態でした。そんな中、食料を調達するため、近くのコンビニエンスストアに買い物にいくと、お弁当など食事向きの商品は棚からすっかり消えている。私と同じような人たちが買っていた後だったようです。配送トラックも入って来られない状況では、もちろん補充もありません。体を温めようにも、買えるのは冷たいジュースやお菓子のみ。仕方なくポテトチップスを晩ごはんにして過ごしました。車がいつ動くかも分からないため睡眠も取れず、ずっと起きていなければならなかったのも辛いものでした。

通常であれば、午前5時に出発すれば昼頃には戻って来られるような距離でしたが、その日は雪が心配で、午前1〜2時頃に出発したのです。それにも関わらず、

往復に要したのは3日間。今振り返っても、これまでに一番苦勞した配送です。それ以降、雪が降っている時はもしもの時に備えて、おにぎりなどの食料をあらかじめ用意していくようになりました。

——大変な経験をされたのですね。その他に、失敗や挫折をした経験はありますか。

10数年前になりますが、客先であるヤマモリの松阪工場に荷物を納品中、大失敗をしてしまった経験があります。翌日の仕事朝早くから入っていたため「急がなければならぬ」という焦りと、隣に新人を乗せているというプレッシャーもあったのでしよう。フォークリフトの操作を誤って、パレットを壁にぶつけてしまいました。

動揺しながらもすぐに各所へ

連絡し、なんとか事故処理は終わりましたが、見せたくない姿を新人に見せてしまうという結果に。「辞めたい」と思うほど、ひどく落ち込み自信を失くしました。そんな時に「くよくよ悩まなくてもええよ」と声をかけてくれたのがドライバー仲間たちです。皆と話をしているうちに、自然と気分が落ちついていきました。良い仲間、同僚がいたからこそ踏ん張ることができたと、今でも感謝しています。余談ですが、この時隣に乗せていた新人は、現在の小牧営業所の次長です。

——これからの意気込みをお聞かせください。

現在はドライバーと中間管理職の「二足の草鞋」を履いている身。そのため、双方の意見を受け渡す役割となり、上手く業務が回った時に、やりがいを感じま



南星キャリアックスでベテラン社員となった今も、感謝の気持ちを忘れずに謙虚な姿勢で仕事に臨む熊谷さん。これからも頼れるドライバーとして、そして運輸部門の班長として、会社の成長を力強く牽引していくことでしょう。